

## 第5回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和3年9月27日(月) 午後3時から午後4時50分
- 2 開催場所 胎内市役所2階 大会議室
- 3 議題 (1) 生徒及び教職員対象アンケート調査結果の報告について  
(2) 併設型小中一貫校について  
(3) 【グループ協議】「併設型小中一貫校」とした場合について

4 公開・非公開の区分 公開

- 5 出席委員
- |      |                 |
|------|-----------------|
| 委員長  | 桐生 和文           |
| 副委員長 | 小野 正敏(2グループ)    |
| 委員   | 橋本 定男           |
| 委員   | 宮園 衛            |
| 委員   | 須貝 欽也(3グループ)    |
| 委員   | 河内 理助(1グループ)    |
| 委員   | 小林 勲(2グループ)     |
| 委員   | 渡邊 俊一(3グループ)    |
| 委員   | 小田 大(2グループ)     |
| 委員   | 近 真由美(3グループ)    |
| 委員   | 渡邊 英実(1グループ)    |
| 委員   | 花野 真也(1グループ)    |
| 委員   | 花野 純恵(2グループ)    |
| 委員   | 岡松 綾(3グループ)     |
| 委員   | 佐藤 志桜(3グループ)    |
| 委員   | 中村 祐一(2グループ進行役) |
| 委員   | 丹後 直子(1グループ)    |

教育長	中澤 毅
学校教育課長	佐久間伸一
管理指導主事	松原 利弘(1グループ進行)
指導主事	山沢 正仁(3グループ進行)
庶務係長	須貝 彰

庶務係主任 川崎 大介

6 会議資料 胎内市立中学校における適正規模に関するアンケート集計

7 傍聴人の数 1人

8 会議の概要（要旨）

---

(1) 開会

○ 議長

ただ今から、「第5回胎内市立小中学校適正規模等に関する検討委員会」を開催します。

ご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

本日、出席者が委員数の過半数を超えておりますので、会議は成立します。

なお、本日は、野尻委員が都合により欠席、久世委員が少し遅れるとの連絡が入っております。

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めさせていただきます。

次第の2、生徒及び教職員対象アンケート調査の結果について報告を行います。

事務局から報告をお願いします。

---

(2) 生徒及び教職員対象アンケート調査結果の報告について

○ 指導主事

それではアンケートの結果についてご説明します。

お手元の胎内市立中学校における適正規模に関するアンケート集計をご覧ください。

1ページはアンケートの概要です。中学3年生192名及び中学校教職員66名を対象に、7月12日から21日の期間でアンケートを実施しました。

2ページが大規模校、小規模校それぞれの長所と短所について、生徒の主な意見です。これにつきましてまとめたものが3ページになります。大規模校の長所が小規模校の短所に繋がるものが多く、逆に小規模校の長所が大規模校の短所というような関連があったと思っています。

大規模校の長所を見ますと「クラス替えがある」「たくさんの人との関わりが持てる」「子どもの居場所が作れる」「行事のスケールが大きい」「部活運営が可

能である」ということが主な長所です。

小規模校の長所として、「まとまりやすい」「仲が良い」「先生目や声が届く」「移動や避難が容易」というものが挙がっています。

4ページに進みます。今と同じ項目の教職員からの回答です。生徒とほぼ同じような内容が多いですが、「教科指導の質が、教科担任が複数いた方が高まる」という意見がありました。また、大規模校と小規模校それぞれ教職員が担当する仕事を分掌と言いますが、小規模校は1人で複数担当しなければならないが、大規模校であれば基本1人1つということで業務量の違いを挙げている教職員が多かったです。

5ページに進みます。「校内での学年を超えた交流活動は大切だと思いますか」という設問です。回答をまとめたグラフは、青色が「大切」、緑色が「まあまあ大切」、薄い茶色が「あまりそうは思わない」、濃い茶色が「そうは思わない」となっています。一目でわかりますが、教職員も生徒も学年を超えた交流活動は大切と捉えているという結果です。これについて、6ページで自由記述の主なものを記載しています。「上下関係」という言葉を使う生徒が多かったです。また「コミュニケーション能力」というところを挙げた生徒も多かったです。教職員も同じ傾向はありますが、「上下関係」がなぜ必要かというところに関して、「リーダー性」とか、「先輩に対する尊敬、後輩に対する思いやる心」という具体的な面を挙げています。

7ページに進みます。「市内他校との交流活動は大切だと思いますか」という設問です。先ほどの学年を超えた交流活動に比べますと、青が少なく緑、薄い茶色が多くなっています。具体的なイメージがまだ持っていない生徒、教職員がいます。また、「忙しくなりそうだ」「大変になりそうだ」というイメージが先行していると自由記述からわかりました。ただし、ここでも「コミュニケーション能力」を挙げた生徒は多かったです。教職員では、やはり懸念される材料として「授業時数への影響」「生徒指導上のマイナス面」を挙げています。

9ページに進みます。「地域と関わる交流活動は大切だと思いますか」という設問です。こちらも青、それから緑が大多数を占めました。生徒も教職員も大切と考えており、生徒にとって必要な活動であるという認識は高いという結果になっています。10ページが自由記述です。生徒から「地域の人たちがいて学校は成り立っている」「愛される学校にできる」「地域活性化につながる」という意見がありました。教職員からも「貢献したいという思いを育てたい」というところで、胎内市はコミュニティ・スクールを令和2年度から全学校でスタートしていますが、この辺が良い姿としてここに表れているのではないかと考えています。

11ページに進みます。ここからは少し設問が変わります。「将来、胎内市の中

学校が今のまま 4 つの中学校を存続する形であればどう思いますか」という設問です。こちらに関しては生徒の回答は、青、それから緑が多いです。教職員は生徒に比べ、青と緑はそこまで多くないという結果となっています。

生徒からは「今までの学校の雰囲気、校舎の特色を残したい」「歴史がたくさん詰まっているし、それぞれの学校の良い所がある」「それぞれの学校独特の文化が消えてしまうのは悲しい」という、これまでも検討委員会で出て来たそれぞれの良さや伝統、これについて特に小規模校の生徒から意見をいただいたと捉えています。また「近くて通学がしやすい」「自分の地域の活動などに参加しやすい」という、自分の生活圏を意識した意見を生徒からいただいています。

教職員も同じような傾向なのですが、「小規模校はきめ細やかな指導ができるので」という、小規模校の良さを認識している教職員がいるということがわかりました。ただし、短所、課題としては、やはり「部活が成り立たないのではないかな」「財政的な負担が大きいのではないかな」というところが挙げられています。

13 ページに進みます。「将来、胎内市内の中学校が小中学校を 1 つの校舎に設置した場合」ということです。回答は、青と緑が他の項目に比べてちょっと少ない、特に教職員も生徒も学校間にバラつきがあるという結果となっています。

生徒からの意見で、長所としては「小学生が中学生になる時のイメージがしやすい」「中学生自身にとっての成長に繋がる」という意見があった一方、心配されることとして、「上下関係が作れないのではないかな」という意見が多く、また「小学 6 年生が中学生を頼り、リーダー性が無くなるのではないかな」「小学生の楽しそうな声などで勉強に集中できなくなるのではないかな」というような心配事も出ています。「自分が変わるきっかけを見つけられなそう」も多く、小学校から中学校に環境が変わるという時に、「よし頑張ろう」とか、「もっとやってやろう」というような「気持ちの切り替えがそのままだと出来なくなるのではないかな」という意見です。これも結構多かったです。また、「中学生の負担が増えると思うから」という意見もありました。

次に教職員です。「中学校をこのまま存続させられるならこれも一つかと思う」、これは存続賛成の方の意見と捉えています。また「地域の学校として文化の保存にも力を発揮することが出来る」ということです。実はアンケートを取った教職員の中で 2 名ほど小中一貫校の経験があるという方がいましたが、そのうちの 1 名は「私はかつて小中一貫校に勤務した小学校職員と中学校職員の指導方針の相違や行事に小中学生が共に参加することにより混乱が見られた」と挙げています。また、「施設面の利用、中学生が小学校の施設を利用することに無理があるのではないかな。机の高さ、トイレ、体育館の広さなど」「時程の違い、小学校は 45 分授業、中学校は 50 分授業ですのでこれをクリアする方法はあるのか」というような意見もあります。

15 ページです。「将来、胎内市内の中学校が市内4つの中学校を1つにした場合」です。こちらも緑、青の占める割合がちょっと少なくなっています。生徒では長所としては、部活を挙げた人がいますし、「人数が多くなり友達も増える」「たくさんの人と関われる」というところです。不安な点として、「歴史が詰まっているしそれぞれ良い所がある」。つまり残したいという意見がありました。それから「登下校」を心配する生徒がいました。

次に教職員です。「1学年4クラスが一番運営しやすい規模になるのではないか」「部活動の選択肢が広がる」「小規模校では幼少からの人間関係を再構成する場に中学進学がなる」というところを挙げています。

また教職員は短所として「広域すぎるのではないか」を挙げています。例えば家庭訪問であるとか、何か起こった時の対応の際、広域すぎるのではないかという意見です。また「中1ギャップが大きくなる」という心配をされている教職員もいました。

17 ページです。「将来、胎内市内の中学校が、乙中学校、築地中学校、黒川中学校を1つにした場合」ということです。先ほどの4校一緒よりも青と緑の割合がちょっと高いという結果になっています。長所は先ほどとほぼ同じなのですが、短所に「自分の住んでいる地域をもっと大事にしたい」「伝統とか全部引き継ぐことが出来ない」という、先ほどから一貫した意見の生徒がいます。「中条中学校がそのままなら他の3校も平等に扱ってほしい」という意見もありました。

教職員からは「やはり校区が広域すぎる」「場所はどこがいいのか」というような意見がありました。

19 ページに進みます。最後、「将来の胎内市の中学校について思ったことについて」自由記述をいただきました。生徒からは「このままがいい」「人数が少ないからこそ学べることや得られることがある」「それぞれの学校の良さ、伝統をこわさないようにしていただいたらうれしい」「学校をちょくちょくメンテナンスすれば新しい校舎を建てるよりも安い」という意見をいただいています。「部活動」に関する意見は思っていたよりは多くなかったのですが、「部活動がないという理由で他の中学校に行く小学生がいるので、地元の中学校に来てほしい」「種目数が多い方が良いのではないか」という意見を生徒からいただいています。

教職員に関しては「このままの状態だと校舎の老朽化というような点で心配される」という意見。「たとえ人数が少なくなっても地域で育てる方がよい」。「ネットなどで4校つながって教育活動ができるのではないか」というICTの利用に関する意見があります。また、分け方も一通りではなくて、例えば「胎内小学校、築地小学校、きのと小学校をA中学校」「中条小学校、黒川小学校を

B中学校」にしたかどうかという意見。また、「乙中学校、築地中学校それから中条中学校、黒川中学校という分け方等」の意見もありました。「部活動についても自然体で活動したい」「まずは部活だけ始めてどうだ」というような意見をいただいています。

○ 議長

ありがとうございました。

この中で、今日の議題の併設型小中一貫校、そして次回の議題になる統合についての考えも述べられています。アンケートの結果をお含み置きいただいて、検討に生かしていただければありがたいと思います。

説明のありましたアンケートの結果について、何か質問等ございましたらお願いします。

○ 学識経験者

結果だけの報告でしたが、アンケートを実施して、どんな感想を持ったのかということも聞かせてください。

なかなか考えさせられたのが、12ページの教職員の「⑤減少が進んでどうしようもないというくらい、やむを得なくなったらというふうに考えて、それまでは今のままでいいか」という意見です。

一方で18ページの教職員の「⑥もう20年経てばもっと減っているのもっと先を見ればなかなか大変だ」というのもある訳です。これを考えた時思ったのは、コロナ禍において、どちらかというとも早め早めの対応と専門家が言う中で、政府は後手後手になったという批判があるわけです。この検討委員会においても、ちょうどいい教訓になっていて、そんなに急がないで、事態が進んで子どもの数が少なく大変なことになった段階で動けばいいということと、いやそうではない、先を見越して先手を打つという、そういうふうにコロナ禍の在り方が私たちに鏡のように見える訳です。

意見としては、今動かないで、もっと進んだ時にという声もあるのですが、私たちがここに集まっている意味は、先を見据えて、10年後20年後を考える、なった段階では手遅れなので、しっかり前を見て行こうということを確認したいという気があります。私たちは、ここに集まっているのは事態が進んでもう大変だというのではなく、先を見据えて、先手先手で、コロナ禍に例えると、6波に向かって今のうちに手を打つと思うのです。私たちは先を見据えて、この委員会として先手を打つのだということをこのアンケートから感じたというのがあります。

先手というと、部活動です。前回、どこかのグループで部活動をセンター方式

にしてそこに集めるという話、また、宮園委員から部活動の問題は地域が支えていくと捉えているという話もありました。部活動をセンター方式にということは統合です。学校の統合ではなく部活動を統合して1つにする。子どもたちもそのことを望んでいるのだから、できるなら部活は教育委員会で地域のスポーツ関係を中心とした団体とどのように連携できるかを探って、中学校の校長先生方にも入ってもらって、先に進めて行っていいのではないのでしょうか。統合の問題で出て来た1つの知恵ですので、もし教育委員会、校長先生方、その方向でいいと思うのであれば、焦ることはないのかもしれませんが私としては先手を取るといふ動きもあっていいのではないかと思います。

○ 議 長

ありがとうございました。

教育委員会で、もしこのアンケートの結果で考えられていることありましたらお願いします。

○ 指導主事

感想になりますが、中学生は立派だなというのが最初に思ったことです。教職員から出てくるかなと思った言葉が中学生から出てきました。自分の住んでいる地域を愛したい、歴史や良さを学校として残したいという意見がどの学校からも出てきていましたので、アンケートをまとめていて、胎内市の中学生は立派だというふうに思いました。

○ 議 長

ありがとうございました。私もその感想を強く持ちました。学校が好きだ、愛している、地域が好きだ、愛している。そんな思いが全面から伝わってきたアンケート結果だったと思います。

それから学識経験者委員の先を見据えてやっていく、まさにその通りだと思います。ただその考えはすぐ統合とかそのような先を見据えるということではないと思います。センター方式の部活動がありました。そういうことをギリギリになるまで待つのではなく、今からやれるのだったら、そういうことを提言していこうということが含まれているのかなと思いました。ありがとうございます。

---

(3) 併設型小中一貫校について

○ 議 長

それでは続いて併設型小中一貫校について、事務局から説明をお願いします。

今日のグループ協議の内容になりますので、わからないところがありましたら質問をお願いします。

#### ○ 管理指導主事

本日の検討会のテーマであります併設型小中一貫校についてご説明します。

小中一貫教育は大きく分けて義務教育学校と小中一貫型小中学校に分けられます。本日説明するものは、小中一貫型小中学校の併設型小中学校、スライドの右下①併設型小中学校ですので、小中学校が一緒にいるという形になります。

義務教育学校は学校に校長先生1人という形ですが、右側、併設型小中学校は1つの校舎に小学校の校長先生と中学校の校長先生がいるという形になります。併設型小中学校は1つの校舎に小学校の先生、中学校の先生がそれぞれいるという学校になります。私が勤めていた、きのと小学校をイメージして話をさせていただきますと、職員室どうするという話になりましたら、そこは改修が必要になります。現在の職員室を改修して小学校の先生のエリアと中学校の先生のエリアでそれぞれ仕事をしていただくという形になります。

教育活動については、同じ学校の敷地内なのですが、小学校は小学校、中学校は中学校の教育活動を行うという形になります。

教室はどうするかということですが、きのと小学校をイメージすると1、2階に小学生の教室、3階は中学生の教室、保健室は先進事例を見ますと、1つの保健室があって、そこに2人の養護教諭の保健の先生がいるという形が多いようです。理科室や音楽室、図書室については共用、一緒に使うという形になります。

具体的な教育活動、可能性の話ですので必ずこれをするという話ではありませんが、例えば運動会と体育祭を合同で行う。規模としては250人から300人で行えるという形になります。または小学校で児童集会というのをしていますし、中学校では生徒総会等していますが、それを合同にもできます。また、音楽発表会と合唱コンクール、そういう合同での活動も可能性として出てきます。事前準備やリハーサル等も同一校の中にいますので、スムーズに進められると思います。

日常の授業ではどんな活動ができるかを考えてみますと、例えば中学生が総合的な学習で学んだことを小学生に紹介するという活動を行うことが出来ると思います。また、その反対も可能性としてはあるということです。また、中学校の先生方が教科別で専門性が高いので、例えば体育の中学校の先生が小学校の6年生のリレーを指導する、また音楽の先生が4年生・5年生・6年生の合唱の指導をするということが出来ると思います。

アンケートの説明にもありましたが、1時間の授業時間が違うということかどうかは、先行している学校の例で紹介します。登校は一緒なのですが、1



時間目、3時間目、5時間目を合わせるということです。6時間目を終了すると小学生は下校します。そのあと中学生が部活をするという形を取っている併設型小中一貫校があるということです。

それから素朴な疑問として3つ上げました。

1. 授業時間については今ほど話をしたとおりです。

2. グラウンドや体育館を使えるのかということですが、これも先行している学校では体育の時間等割振りをして使っています。休み時間等の利用を割振ったり、部活動については小学生下校後に活動したりしています。また学校を1つに併せますので、中学校または小学校、どちらかの体育館が空きますので、その体育館の活用が可能だということになります。

3. 教室の広さ、机、椅子の大きさについては、現在それぞれの学校で使っている物を持ち込むので、小中学生対応出来ます。ただし、理科室、家庭科室のテーブルの高さについては可動式に改修して使っているという学校があります。

期待されることは、検討委員会でも時々話題になることですが、「児童生徒数が増えるので様々な活動が活気づく」「小中の連絡がスムーズ」「中1ギャップの減少が期待できるのではないか」「中学校進学時の不安が軽減する」、文部科学省の報告にはそのようなデータも示されていました。小中学校を超えた異学年の交流の活性化、上の学年の自己肯定感の向上です。下の学年は上の学年の人をカッコいいとか早く中学生になりたいという向上心の育成に繋がっていきます。先ほど申し上げた小学校高学年の授業に中学校の教科担任の先生が参加出来るということが教育効果として期待できるのではないかと思います。

実際小中一貫校で進めている学校の中の様子、写真で示してみましたが、左上文字で書いてある通り、中学生が小学生に勉強を教えるリトルティーチャー。また右上ですが、総合的な学習の時間の様子ですが、中学生が小学生に教えながら取り組む竹ばし作り。下は運動会、体育祭です。小学生と中学生、地域の方も入って体育祭を行っているという、実際にこういう例があるということです。

懸念されることですが、1点目、アンケートにもあったように中学生になったという実感が薄い。同じ校舎ですのでまた同じところに来るのかということです。

2点目は、部員数確保の十分な課題解決にはならない。中学生の数は変わらない訳です。ただし、現在部活動の改革の取組みが進行中でありますので、センター方式についてはまだ着手されていませんが、中学生のスポーツ教室というの進められています。

3点目は、進級時の学級編成ができません。先ほどと同じように生徒数は変わらない訳ですので学級数も同じ。これについてもアンケートの中にもありました交流活動で人間関係を豊かにするという考え方もあるのではないかと思います。

とです。

最後4点目、教職員の負担が増す。小中連携というのはあまりされてきてなかったことですから新しい事業になります。教育課程を組替えたり、合同活動をしたりする際の計画の立案、運営面で教職員のすることが増えるということが考えられます。

以上です。協議の中で質問等ありましたらお話しいただければと思います。

○ 議 長

ただいま説明のありました併設型小中一貫校について、質問等ございましたらお願いします。

<発言なし>

○ 議 長

グループの中で進行の先生がいますので、質問があればその中で聞いていただきたいと思います。

説明の中で、きのと小学校の名前を出されましたが、例えばきのと小学校の校舎に乙中学校が一緒に入るというイメージになります。そんな形の中で併設型小中一貫校についてグループ協議していただければと思います。

また、アンケート結果、そして今までもいろんな形で連携型小学校中学校が話題に出て来ました。そういうことを踏まえながら協議をお願いします。

それではグループ協議をそれぞれの司会にお任せします。4時10分を目途にお願いします。

○ 委 員

グループ分けが地域ごとになっています。私のグループは築地地区ですが、築地地区ということの主眼に考えてやればいいのか。それとも併設型小中学校一貫校という概ね一般的なものを考えればいいのか。築地でやる場合という限定で考えればいいのか。このようなグループ分けにした意図は何かを併せてお聞かせいただければと思います。

○ 議 長

あえて小規模校3校のグループ分けをしているその意図ということですが、事務局、お願いできますか。

○ 学校教育課長

今回グループの割り振りは地区別です。中条中学校区については、併設型はすぐ実現できるものではありませんので、中条中学校区を除く3地区でグループ編成をさせていただきました。各地区で実際にこれを導入するとなればといったところで協議いただきと思っています。

○ 議長

その地区の中学校の併設を考えていただきたいということです。そうすると共通の部分も出てくると思います。また違った視点も出てくると思います。それぞれの中学校が併設型になるということではなく、それをイメージして協議をしていただくことになります。グループ協議にあたっては小野副委員長にはグループに入ってください。

なお、学識経験者の橋本委員、宮菌委員からは最後にグループ協議を踏まえてご意見をいただきたいと思っています。

それでは進行役は各グループあらかじめ決まっておりますのでお願いします。時間についてあと30分くらいになりますが、能率よく協議をいただければと思います。それでは始めてください。

---

(4) 協議事項 【グループ協議】「併設型小中一貫校」とした場合について

<3グループに分かれて「併設型小中一貫校」とした場合のグループ協議>

<約30分>

○ 議長

まだ盛り上がっている最中ですが、それでは時間です。

進行の方々ありがとうございます。

それではグループで話し合われた内容についてこれから発表をしていただきます。初めに第1グループからお願いします、3分程度をお願いします。

○ 管理指導主事

教育的なメリットはあるのかということが主なテーマになりまして、特に「中学生に対してメリットはある」「交流は校舎が違ってでもできるのではないか」「中学生らしいダイナミックさが混ざることによってなくなるというのはないのか」という声があります。

また、中学校の先生の仕事量が増えるのではないかという意見が聞かれます。

やはり子どもにとってメリットはあるのかと考えた時、小学生にとってはかなりある。中学生には交流には意味がある。先日のいじめ見逃しゼロスクール集会でも中学生にいい姿はあった。ただし、高い地点に向かう中学生のベクトルが作りにくいのではないかと。つまり、小学校の世話を続けるのも自ら高い所にというメリットに見たら効果が少ないのではないかとという点であります。でも、やはりメリットはあるだろうという、具体が少ないのでイメージがしにくいなということ終始してしまいました。

○ 議 長

ありがとうございました。それでは続いて第2グループお願いします。

○ 委 員

第2グループです。もう築地小中併設型の一貫校作るとしたらどうですかということ聞いていきました。

結果的には消極的、しかたなくOKではないかと。ただし、理由があって、中学校が1つになるまでの移行措置としてはいいのではないかと、これができるば築地モデルと付けていただきたいということでした。

メリットとしては、築地地区を考えると小学校と中学校非常に近い所にある。通学範囲も変わらないだろうし、なおかつ小学校の校舎が素晴らしく、空き教室も出てきている。その反対に中学校の校舎は凄く古く、そういう点では小学校に中学校が行くのもいいのではないかとということです。私がいた時も小学生が中学に上がってくると中1ギャップ、校舎ギャップというものもありました。古い学校に行きたくないというのもありまして、その一つに解消策としてのメリットがあるのではないかと、コスト面も安く済むのではないかとということなんです。教務室とか2つになるかも知れませんがコストパフォーマンス的には二重丸ではないかと。また、先ほどありましたが中1ギャップが解消できるのではないかと。特に中学生の生徒指導上の際、小学校の先生が近くにいるというのもプラスになるのではないかとという話がありました。

とにかく築地は地域愛が強い、築地という名前をぜひとも残してほしいということなんです。もうすでに小中連携が進んでいて、クリーン作戦は小学校と中学校一緒にやっています。コミュニティ・スクールも小学校と中学校一緒です。1つの学校運営協議会でやっているということで、そういう点では移行するには下支えが整っているのではないかと。

部活動についても、考えようによっては小学生が中学生の頑張っている姿を見るということは、子どもたちの育成面でも早目に対応できることもあるのではないかと。

デメリットは先ほどと同じです。部活動とか9年間変化がないというのは親御さんとしてはちょっと想像できない。思春期の多感な時機であって、やはりそれも中学生同士いろんなことがあるのも大事なことはないか。心の育成でも自立心とかそういうのが心配だと話がありました。

もし、やるとなればしかたなく受けてもいいのではないかなという話が出ています。

○ 議長

ありがとうございました。それでは続いて第3グループをお願いします。

○ 指導主事

3グループは黒川中学校区ということで考えました。

初めに心配なことを出していただきました。

先ほど話がありました。小6のリーダーシップとかそれも含めて中3までにどれだけ成長するのか、高校へ行って困るのではないかというところ。それから、小学校と中学校では先生の質が違うのではないか。小1と中3が一緒になった時に危ないのではないかというところの3つ挙がりました。

ただ、もちろん心配な点ではあるのですが、裏を返せば中学校小学校一緒であるよさにもなりうることです。例えば、リーダーシップの話であれば、「心配だ、俺は出来るのか」という小学6年生に、中学生が声をかけてあげたり、お手本を見せてあげたり、フォローができるのではないか。また中学校の先生は威厳があったり、ちょっと強めなのではないか、それが必要なのではないかという話が出ていましたが、逆に小学校から上がる時に「私は怖い先生が心配で心配でたまらない」という子がいれば、小学校の先生のように優しく接してあげれば、そういう心配がなくなるのではないか。

小学1年生と中学3年生の違いも、確かにみんなが廊下を走れば危ないのですが、逆に思いやりをもって過ごすことも出来るのではないかというように、小中一緒になったのであれば、その良さに子どもや保護者、先生も目を向けながら、何年か掛けながら、お互い話をしながらということが大切ではないかという話になりました。

実際、黒川小学校と黒川中学校のどっちの校舎に行くかという話になった時に、教室数から考えて黒川小学校でしようということで、例えば1階と2階は小学生、3階は中学生、3階をきらびやかなイメージにして、校舎が変わらない分、私は明日からは3階だよというようなところでちょっとでも切り替えてもらえれば、また制服や体操着が変わったりというところもあるかなということ。ただし、施設の黒川小学校は非常にコンパクトというか小さくて、体育館とグラウ

ンドが中学生の部活には使えないのではないかと聞いた時に、あの遠い中学校に戻って部活をするのか。また、昔の村民体育館があり、取壊しが決まっており、その跡地も見据えて何かできるものはないのかというところも考えどころです。

通学の手段は、バスなのか自転車なのかというところがちょっと大きい課題ではないか。大長谷の子が更に黒川小学校まで自転車で来るということになるので大丈夫かなというところ。ただ体力的にはそうできれば一番いい。

地域に中学校を残したいと地域行事とかお祭りに中学生が参加してエネルギーを与えようという活性化プランが黒川中学校はあったのですが、コロナで今年去年と出来ないということで、この辺も学校を残す郷土愛ということで一つ行事として入れて、小学校中学校協力してできればさらに盛り上がるのではないかとということです。

最後、率直な所、これ賛成ですかと言ったら賛成の方はいませんでした。こういう状況が起きればということで考えました。

#### ○ 議長

はい、ありがとうございます。

それぞれ3グループから発表をいただきました。

それぞれの中学校区で少し温度差があるかなと感じました。それぞれの小学校中学校の位置とか、そういうところからくる考えだろうとは思いますが、どの発表も積極的に受け入れたい、これを第1で進めたいという班はなかったようです。その形になれば、よし頑張っていこうというふうなサインと思います。それはアンケートとも共通しているところがあると思います。アンケートも、生徒それから教職員の集計を見ても、1番は、単独校で存続。そして小中一貫と3校統合、これが大体同じような比率になっていると思います。そんなアンケート結果が出ていると思いますので、また後でご覧になっていただければと思います。

それではここで学識経験者の橋本委員と宮菌委員からグループ協議を踏まえ意見をいただきたいと思います。

初めに橋本委員。よろしく申し上げます。

#### ○ 学識経験者

この小中の9年間、一貫してするというこの形は、そもそもは適正規模とは関係ないことです。中1ギャップを克服するという形で生まれてきたものですが、もしかしたら新しいあり方として、併設の同じ校舎に入るということで、何とか小規模校をちょっとでもデメリットを克服していくという、異なる目的のものが今一緒になって議論に入っています。だから、小中一緒になってどうするという問題と、将来児童生徒数が危なくなるので同じ校舎に小中一緒になって、集団

での切磋琢磨などのいろんな問題をどう克服するかという問題とが混同しているところがあります。一つ言えることは、仮に統合をしないで、現在のままとしても、絶対に小中連携は必要なのです。だから、これからの新しいあり方として、義務教育9年をこれまでにない形で一貫した学校にどう進むという不安もあるかもしれませんが、どうしようもないです。もう9年考えて交流はするしかありません。

築地地区は自分も生まれが地区です。私の頃は小学校、中学校が隣接していました。今は畑を挟んでいますが、ものすごく近くにあって、市内の中学校区の中では独特だと思いました。既に相当連携が進んでいるとも聞いています。

小中の交流はどうしても必要で、中学校にメリットがあるのか、負担が大きいみたいな話がありますけれど、そこは乗り越えるしかないのです。そういう覚悟が必要なのです。さきほど築地モデルという話もありましたし、なかなか反対の声が多くてというのもありましたが、これからの適正規模を考えて、あり方を考える時に、小中連携9年間の一緒になった形は、どうしても受け入れざるを得ないのです。

そうすると、次の問題が出てきます。要するに併設型でいくかどうかは別として、一貫校として交流を深めていくという、そこを一步踏み出して今よりももっと交流を増やすというためには、先生方にとって意義があることが必要です。しかたが無くてはダメです。築地モデルという言葉がありましたが、胎内市で小中の義務教育をどう連携しながら進めるかのビジョンがどうしても必要です。それがないと先生方は踏み出せない。負担ばかり、しぶしぶでは進まない。1点目は、いずれにしても小中の連携はどうしても必要、小規模校の問題を抱えて適正規模を考える上では連携はどうしても必要、交流はどうしても必要、それを言いたいと思いました。

2点目は、委員会がはじまった頃と、今で違うのは地域愛です。初めの頃、私は心配でした。「地域の学校を残そう」みたいなことを誰も言わない。ただ、心の奥にはあったのですね。だんだん強まってきて、そしてアンケートでもはっきり出てきていました。子どもたちからも本当に強く出てきていて、今日の話の冒頭にありましたが、故郷のよさ、学校の特色、伝統、今まで培ってきた学校のDNAのようなものを大事にしたいという、それもものすごく出てきています。適正規模で小中併設型をする1つのメリットは、そこに学校が残る、学ぶ場が残るというのがあります。それも無視できない。故郷を想う子どもたちのそういう想いを育むという、これを大事にしながら適正規模を考えていきたい。この故郷愛を決して無にしないというか、小さくしないというか、育んで強めていきたい。そういう方向がこの議論の中で出てきていることは、いいなと思いました。今後どういう形になるにしろ、生徒たちの想う故郷への愛着を育むというのは、ぜひ

教育委員会の皆さんも、しっかりと受け止めていただきたいと思います。

最後に、小中一貫の9年間のカリキュラムを作って合同で進むということについては、三条市がずっと先輩なわけです。でも三条市がそれを踏み切った時は散々で、私もその頃三条市に関わって自分の経験です。今も三条市に時々行っていますが、初めの頃と今とは本当に違って、今はいいと言っています。三条市のように小中一貫校をまちの学校のメインテーマにしていくという、そういうまちづくりの流れの中で行われました。そこから学ぶのは一貫校の議論は別として、胎内市はどこへ行くのという、どんな人づくりをしたいのという、地域の皆さんはこのまちをどこへもっていききたいという、築地を、黒川を、乙を、中条をどんなふうにもっていききたいという、そういう学校づくりとまちづくりをリンクして、一緒に考えていくというのが、どうしても必要だと思います。

それで前から胎内市モデルみたいなものとして言ってきましたが、やはり市長から一言ほしい。胎内市はこういうふうになる、学校を育てると1回位言っているのではないか。そうすると何か気合が出ます。難しいかもしれませんが。

そしてまた、最後に言いたいのは、先生方を燃やすしかありません。生徒の思いをくんで、先生方が「負担何のその！ヨッシャ」みたいことで進んで行くしかない。その時に先生方を燃やすにはビジョンがいる。「そうか！そういう学校を市は目指すのか。よし！」と思わないとダメで、「しなければならぬ」「どうしようもない」、どん詰まりまで行って「どうしよう」ではなく、先に光があって、目指すものがある、「よし！あそこを目指そう」という時に、先生方は燃えるのです。それを見て生徒も燃えるのです。このまちの教育をどうするかという、そういうことも考えながら進んで行きたいと改めて思いました。

○ 議長

ありがとうございました。それでは続いて宮園委員、よろしくお願いします。

○ 学識経験者

今日のグループワークの前にアンケート集計を見ましたが、生徒の思いというか願いの深さというのがあったと思います。自分たちの学校、地域に対する思いがあって、それを大事にしていきたいということ。一方で教職員の方の中には、これから先の人口の動向などを見ていくと、あと10年20年経てば、どうしても変化を自分たちから起していかなければいけないという現実があるということ。そのあたりの違う要素はありますが、生徒の皆さんが「自分たちの地域を大事にしていきたい」、そのためにはどういう変化を私たちが示していけばいいのかということを考え始めています。アンケートの中にもありましたが、20年経って、そこでどん詰まりになって、変わって行かざるを得ないとすると、



徐々にどういう変化を私たちは考えて、ビジョンを打ち立てていくか。ビジョンを打ち立てて、そこに向かうためには情熱が必要となってくると思います。「こんな学校にしたい」という、今日の小中一貫の問題も橋本委員の方からありましたが、どうしても今後は必要となってくるという話がありました。

私は大学で、小学校の生活科、小学校・中学校の社会科、そして高校の地理歴史科、6歳から18歳までのその教科の学習指導をここ30年間やって来ましたが、小学校だけ見て、中学校だけ見てということではなく、全体を見てその中で子どもたちがどう成長していくのかということ。そのような視野をこの30年の中で自分自身も持ってきました。そのことは大事なことであって、小学校でどのような教育をするか、でもそこだけ見ているということと中学校や高校まで見据えて行った時に、義務教育の中で先生方がただ単に学校と一緒にいるというのではなく、意識がどういうふうに変わっていくか、6歳から15歳くらいまでの間に子どもたちを私たちの地域がどういうふうに育ていきたいかという、例えばどんな学校をつくっていく、施設の問題というのが今日の話でいくつかありましたが、それ以上に意識の問題とか、どのような教育をしていきたいかという、ここに課題があると思いました。

今日の議論は、小中一貫ではどのような課題の解決が可能なのか、あるいは新しいものを創造できるのかという、そういうテーマだったのかなと受け止めています。中学生にとってメリットがあるのかという話もありましたが、私も実際に学校をつくったという経験はそんなにないわけですが、幼稚園、小学校、中学校で、一緒に運動会をやるとすると、中学生にとって種目は少ないです。ただ、午前中は全児童が来て入場行進は中学生が手を引いて一緒に入っていくとか、それは年に何回しかない。いつも一緒にやっているわけではない。でもそういう時に中学生はケアしていく。そして、小学生は中学生の姿を見て「ああ、すごいな」と、そういう学校教育的な機能が発揮されると思いました。

一緒にやるからといって、教員の交流が無いとそれは教育的にはなかなか一貫という形にはならないと思いました。先ほど言ったように一緒になるということは意識を変えていくということだと思います。義務教育として、子どもたちをどのように育てて行くのかというところにポイントがあるのではないかと考えました。

中学校が1つになるまで築地モデルが合っているのではないかという意見もありましたが、それはいろんな考え方があると思います。そこまでやって変えていく時になんとか凌いでいきますが、でもその先を見越していく。だから手を打っていかねばいけない。そういう議論が良かったと思いました。そういう意味で、徐々に前向きに意見が出てきていると思いました。

○ 議 長

ありがとうございました。お二人からグループ協議を踏まえてご意見いただきました。

非常に夢のあるご指摘だったと感じておりました。そして、その中の一つに情熱という言葉がありました。教職員の情熱、そして私たちの委員会にも情熱が必要で、どんな形で行くのか、夢を持ってというところで提言できればいいのではとグループ、そして学識経験者の話を聞きながら考えていました。

以上で、本日予定している協議は終了しますが、委員の皆さんから何かございますか。次回は「統合について」のグループ協議です。それらを踏まえながら、こんな資料が欲しいとか、あるいはここはどうなのだろうということがございましたら、お願いします。

○ 学識経験者

今、自分は県でいじめ問題と関わりを持っていますが、いじめを含む生徒指導の分野で、今中学生の間に、圧倒的に課題になって上がってきているのは中学生の自己有用感、自己肯定感です。

非常に根本的な問題で、この前の文部科学省で主催した全国から教育委員会の担当を集めての生徒指導関係の研修での話題も自己有用感でした。それを育てるのにもものすごくいいのが、実はこの小中一貫です。

中学生が自分は生きている価値がある。小さい子がいて、それは中学生にとっては負担で何か損するような感じですが、実はそこには生まれてくる自分はなかなかやれるという自信が小中一貫校にもものすごく多いというのを言うのを忘れていました。

それで、中学校で学校評価か何かで、自己有用感についてのアンケートを取っていると思います。

OECDの調査を見ると日本は最低最悪です。全然ダメです。世界で一番ダメとっていい位、日本の中学生は自分はダメだと思っているのです。胎内市の4つの中学校の自己有用感に関する現状をわかる何か資料がありましたら出していただければと思いました。

○ 議 長

ありがとうございました。教育委員会の方でそういう中学校の実状を聞きながら、そのような資料が出るようであればお願いします。

それではその他、事務局から連絡等ありますか。

○ 学校教育課長

それでは次回会議のご案内をさせていただきます。開催月としては11月を予定しています。また改めまして、協議事項も含めまして、文書でご案内をさせていただきますので、よろしくお願ひします。また1ヶ月くらい前には開催日をお知らせし、資料等があれば1週間くらい前にお手元に届くように準備させていただきますと思います。

○ 議 長

よろしくお願ひします。

閉会の挨拶を、小野副委員長からお願ひ致します。

○ 副委員長

それでは、本日もお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。かねてから熱望しておりました生徒へのアンケート、今回発表させていただきましたけれども、冒頭に説明がありましたように、私たちが想像していた通りの部分もあれば、「おっ」という部分もあったのかなというふうに思っています。中学生は考えているのだなとアンケートを見て私個人としてもそんなふうに考えた次第です。このアンケート結果があることによって、今後話し合いを進めていく、一つの大きな土台ができたのかなというふうに思いました。大人が考えていること、子ども自身が考えていること、それをいかに合致させていくことが大切なのかなというふうに考えています。先ほどお二人の先生方からも話をいただいておりますが、皆さんの熱い思いを込めた答申が出来るように、あと回数もわずかになってまいりましたが、引き続き協議いただきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひします。本日は、誠にありがとうございました。

○ 議 長

ありがとうございました。議論を深める中でまた大きくなってきたのが地域愛、そこへの想いなのだろうというふうなことをアンケートからも感じました。学校づくり、そして地域づくりなどテーマにしながら、より議論を深めてまいりたいと思ひます。また、次回を楽しみによろしくお願ひします

それでは以上で検討委員会終わらせていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。